

# 市川の代表として各分野での功績を称える 平成15年度 児童・生徒学習賞

2月20日、市川市議会議場で平成15年度の児童・生徒学習賞の表彰式があり、個人8件、団体11件が受賞しました。この賞は市川市の小・中・養護学校の教育活動（文化・スポーツ面）の一環として全国的規模・全県的規模の行事に参加し、最優秀またはそれに準ずる成績を収めた児童・生徒（個人・クラブ・部・研究グループ）に与えられるものです。受賞されたみなさん、おめでとうございます。



## 平成15年度 児童・生徒学習賞 受賞一覧

### 【個人】

|                  |                  |
|------------------|------------------|
| 竹俣 晓 (中山小 5年)    | 石川 里美 (新浜小 6年)   |
| 本多 優里 (柏井小 5年)   | 塚田 順人 (日出学園小 4年) |
| 増田 智恵 (南行徳小 3年)  | 永尾 薫 (第二中 2年)    |
| 海江田 夏喜 (下貝塚中 2年) | 佐藤 茉奈 (塩浜中 3年)   |

### 【団体】

|                |               |
|----------------|---------------|
| 大柏小 吹奏楽部       | 新浜小 吹奏楽部      |
| 富美浜小 マーチングバンド部 | 第三中 女子ソフトボール部 |
| 第六中 管弦楽部       | 第七中 水泳部       |
| 下貝塚中 体操競技      | 塩浜中 サッカー部     |
| 塩浜中 吹奏楽・合唱部    | 妙典中 合唱部       |
| 昭和学院中 パトン部     |               |

## 音楽で深まる交流 -高谷中ブロックJ.E.Cプランの取り組み-

1月31日、高谷中ブロック地区別音楽会「ドリームコンサート」が信篤小学校体育館で開かれました。

信篤小学校・野澤順治校長による「市川南高校は今年が初参加です。それぞれが日頃がんばって練習している成果を発表してください」との言葉でいよいよスタートです。

参加したのは地域の二俣小学校吹奏楽部、信篤小学校プラスバンド部・合唱部、高谷中学校吹奏楽部、県立養護学校音楽クラブ、市川南高等学校吹奏楽部・合唱部です。

『わっしょい』というかけ声とともに迫力のある演奏を披露してくれた県立養護学校の「ばらき一番太鼓」や、手話を交えながらの市川南高校の合唱「この星に生まれて」など、それぞれの演奏や合唱が終わると会場からは大きな拍手がわき起きました。

2時間にわたるコンサートのしめくくりは、二俣小吹奏楽部、信篤小プラスバンド部、高谷中吹奏楽部、市川南高校吹奏楽部による合同演奏です。この日初めての合同演奏とは思えない、息のあった「踊る大捜査線ハイライト」でコンサー

トの幕を閉じました。

音楽を通じて異校種間の交流を深めた一日でした。



### J.E.Cプラン (市川市地域教育共同体構想)

- ①地域に開かれた学校になるために積極的に様々な形式の授業公開を進めます。
- ②幼・小・中・高・養護学校等の連携が促進されるよう総合的支援を進めます。
- ③J.E.C推進機関の設置を推進し、相互の情報交換及び教育研究深化の促進を図ります。

## 小中五校で

## 環境にやさしい活動を実践



学校版環境ISOは、平成14年に市川市が「ISO14001」を認定取得したことを受け、学校でも何か環境に良い活動を進めることができないか、ということで始められました。

1月28日、市川市学校版環境ISO認定式で、本年度実施校として指定された5校（中山小、菅野小、百合台小、第二中、東国分中）に認定証が送されました。

## 学校版環境ISO認定式 行われる

認定式では、代表児童・生徒による各学校の取り組みが発表されました。どの発表も、学校が環境にやさしい活動を進めていくことで、限りある資源を大切にして豊かな自然を未来に引き継いでいきたい、という気持ちが伝わってきました。一人ひとりの力は小さくても、みんなで協力することで大きな力に育つ感じました。

### 各学校の取り組み

- 中山小ー4年生のゴミの学習から始まった活動を全校に呼びかけ、ゴミの減量化や物を大切にすること、節電することなどを進めています。
- 菅野小ー定期的なゴミの量の測定や牛乳パックリサイクル、ゴムベラを使って食器の汚れ落しなどを全校で行っています。
- 百合台小ー町ビカ登校や節電、文房具を大切に使うこと、ピン・カンのリサイクル、節水など、各自で目標を決めて取り組みました。

○第二中ー委員会活動で節電やゴミの計量、古紙のリサイクル、学区の小学校と一緒に学区の清掃活動などに取り組みました。

○東国分中ー近くの春木川の汚染についての学習や環境にやさしい石鹼づくり、堆肥づくり、生徒会による節電の呼びかけなどが行われました。

学校版ISOの活動は、子どもたちだけでなく保護者や地域の方の協力を得て、大きく広がり始めています。来年度はさらに実施校を増やし、環境にやさしい活動を学校から「市川市全体」に発信していかなければと考えます。

## 平成16年度

## 「いちかわ市民アカデミー講座」のお知らせ

「いちかわ市民アカデミー講座」は、平成16年度で2年目を迎えます。この講座は、市内にある昭和学院短期大学・千葉商科大学・和洋女子大学の協力を得て、各大学の持つ専門的かつ高度な機能や施設と恵まれた環境の中で、新しい知識を習得し広く仲間づくりを図るとともに、学習の成果を地域活動の中に生かしていただくために開講しているものです。

平成15年度は募集定員を上回り、受講された方からも好評を得ることができました。引き続き平成16年度も開講を予定しています。講座につきましては大学ごとに統一テーマを設定し、そのテーマに基づき年間（12回）を通して学びます。このテーマについては、各大学の専門分野を中心に、現代社会の実生活に即した身近な問題や市川に関わりのある内容になる予定です。

平成16年度の募集は4月中旬頃から5月初旬までを予定しています。「広報いちかわ」や市のホームページ等でも案内をする予定です。詳細についてのお問い合わせは生涯学習振興課までお願いします。

TEL 334-1111 (市役所代表)

# 教育いちかわ

## 平成15年度 教育実践記録論文

# 最優秀賞には2編の論文が

### ぼくたちわたしたちのメダカ池

～集団を活かした、価値ある総合的な学習の時間の創造～

市川市立大柏小学校 教諭 松本邦宏・吉野ヨシ子・新井仁恵

#### <概要>

子どもが主体的に取り組み、

#### 集団のよさを引き出すことのできる素材の教材化

- (1) 子ども（教師も）の興味を引き出し、取り組む価値を感じさせるもの。
- (2) 入口が狭く、その先の発展性や広がりの期待できるもの。

- (3) 子どもが達成感を感じることができるもの。

#### 「ぼくたちわたしたちのメダカ池」実践より

●「大町自然観察園」での自然観察教室。子どもたちは昔ながらの谷地の自然に触れ、谷地のわき水のきれいなことや冷たいことに驚き、絶滅危惧種として紹介されたホトケドジョウが印象に残った。

学校に戻った子どもたちは、地域の自然紹介の地図を見た。そこには、特別なものと思っていた「わき水」が学校の近くでも見られると紹介されていた。そこから、子どもたちの「わき水探検」（総合的な学習の時間）が始まった。

●5年生になり、NPO法人「メダカの学校」の活動に出会わせた。社会科「稻作農家」、理科「メダカの誕生」の学習も子どもたちの興味を高めることにつながった。ホトケドジョウと同じ「絶滅危惧種」であり、市川市では全く見られないという黒メダカを自分たちの手で育ててみたい、という思いで活動はスタートした。そして学校のミニ田んぼはメダカの稚魚であふれ、成長していった。



●メダカが増えてくると今後どうすればよいかという問題が起きた。ミニ田んぼを次の5年生に渡す時に、メダカの引っ越しをしなければならない。

子どもたちは次第に「メダカ池を作る」方向に進んでいった。クラス間の情報交換が行われ、学年がまとまってメダカ池実現に向けて動き出した。

学年で池づくり実行委員会を作り、各クラスで話し合った意見を集約してメダカ池の原案を立てることになった。



計画を全校の先生や子どもたち、地域の方々に知らせて協力やアドバイスをもらおうと、「メダカ池説明会」を開くことになった。さらに「設計」「広報」「交渉」「取材」の学級を超えた4つの活動グループを作り、互いに連携しながら活動が行われた。

説明会を経て、メダカ池の着工が始まった。活動が進むうち、地域の協力者も増えていった。

「オープニングセレモニー」に向けて子どもたちの活動は続く。

#### 考察

この学習は、始めの予想をはるかに超える充実した内容になった。これは、学年の教師集団と子どもたちの力が相乗効果を生み、活動を支え、推し進めてきた成果だと考える。

メダカ池という素材に、子どもも教師も十分な価値を見いだし、こだわりを持って取り組み続けることができたからこそ、たくさんの障害や悩みを乗り越えてここまで来ることができたのではないか。

様々な場面で子どもたちの「やったぞ」という思いと、それを土台にして次の活動へ向かう自信に満ちた活き活きとした様子を見ることができた。

## 平成15年度 教育実践記録論文 受賞一覧

### 《最優秀賞》

○松本邦宏 吉野ヨシ子 新井仁恵（大柏小）

「ぼくたちわたしたちのメダカ池

～集団を活かした、価値ある総合的な学習の時間の創造～」

○小林一善（宮田小）

「人と人とのつなぐ『まちづくり学習』～地域を学習の場に～」

### 《優秀賞》

○藤木信弘（二俣小）

「『百ます計算』を核に『瞳輝く二俣っ子』の育成をめざして」

○横田美江子（富美浜小）

「学びを確かなものにするために」

～土台作り（環境）が自然に親しみ自然を愛する心を育てる～」

○松井聰（福栄中）

「楽しく学ぶ社会科の基礎基本～海外日本人学校を経験して～」

平成15年度の教育実践記録論文の表彰式・発表会が、2月10日に生涯学習センターで行われました。今年度は松本邦宏・吉野ヨシ子・新井仁恵教諭（大柏小学校）と小林一善教諭（宮田小学校）の2編の論文が最優秀賞を受賞しました。最優秀賞受賞論文の概要を掲載します。

## 人と人とをつなぐ「まちづくり学習」 ～地域を学習の場に～

市川市立宮田小学校 教諭 小林一善

#### <概要>

#### 地域全体を学習の場に

地域学習は自分たちの生活の密接なつながりへの自覚を高め、子どもたちが意欲的に学習するところに大きな魅力があると考える。

「子どもたちにかかわる力をつけてほしい。そのためには探究の場をどのように設定するか」。かかわる力をつける場として「まちづくり学習」を設定した。

#### 1年目(2001年)の取り組み

##### テーマ：みんなのためのまちをつくろう！

学区の「まちづくり推進協議会」に協力を依頼し、小学校と大学、地域がタイアップした合同の活動が実現した。

10月—小学生と大学生、サポートスタッフがまち歩きをし、ガリバーマップ（大きな住宅地図）に情報を書き込み、情報の共有と意見交換を行う。



11月—グループごとに大学生とともに提案資料を作成し、保護者や教師、子どもたちにプレゼンテーションを行う。後日、まちづくり推進協議会のメンバーと地域にかかわる専門家、行政担当者、学校職員に対し、代表3チームが発表を行う。小学生の豊かな発想や表現方法が評価された一方、まちの現状や現実的な意見が出され、リアルなまちづくりの体験になった。

#### 2年目(2002年)の取り組み

##### テーマ：さがそう・つくろう・大好き市川2002

「要望だけではなく、自分たちが努力すればどこまでよくなるのか。自分たちにできることを考えるともっといい」と指摘されたことを受け、2年目のまちづくり学習がスタート。3点のポイントで活動計画を立てた。

- ①地域の方や関係諸機関の方々と一緒にまちづくりについて考える。
- ②調べ学習だけでなく、実際に活動や体験したことを活かして提案資料をつくる。
- ③まちの問題点や改善点だけでなく、今ある「まち」の魅力・発見などについての提案も積極的に取り入れる。

グループごとの14テーマをもとに、地域の方、行政担当者とともに活動を開始する。



##### グループのテーマ例

- ・空き教室を使ってボランティアをしよう
- ・大洲公園カスタム作戦
- ・きれいなまちづくり隊
- ・郵便プロジェクト×
- ・市川清掃隊2002
- ・文化のまち など

#### 成果

子どもたちは、自分なりの思いを持って友達や地域の人とかかわった。子どもたちが「自分でやれること、自分でできること」をしっかりと伝え、本当にやりたいことを足元から見つめ直して課題を持ったことが、伝えたいという意欲になった。

積極的に課題を発見・追究し、わかりやすく、工夫を凝らして発表している子どもたちの姿に、「まちづくり学習」の持っている魅力を感じた。

### 《優良賞》

○今井久代（市川小）

「知的障害児学級における音楽と他教科とのかかわり

～絵本を題材にした音楽劇の取り組みから考える～」

○中村礼子（真間小）

「語り聞かせを通して、読みの力を育てる」

○高木慶子（若宮小）

「『算数らんど』へおいでよ

～少人数で、きめ細やかな算数指導を目指して～」

○小島正夫（南新浜小）

「国語科と情報教育の横断的学習（総合）」

○長崎誠（第四中）

「理科好きな生徒の育成を目指して

～博物館、高等学校と連携した少人数指導の実践例から～」

12月5日、真間小学校を会場に、菅野小学校・第二中学校・養護学校・学区の幼稚園の先生方が参加して、第二中学校ブロック交流会が行われました。第二中学校ブロックでは、日常の教育活動でも交流が行われていますが、ブロックの学校が一同に集まる交流会は、平成14年度(会場:第二中学校)に引き続き、2回目の開催となります。

この日は、真間小の1年生から6年生の全学級で授業を公開し、先生方が自由に参観を行いました。

授業参観の後、多目的ホールで、真間小学校の「総合的な学習の時間」「英会話教室」「パソコン教室」「福祉教育」などの教育活動が紹介されました。この後、分科会が行われ、熱心に情報・意見交換が行われました。

このような、交流活動は、異校種や他校の子どもたちの様子を知ることができ、連携の大切さを感じる貴重な場となります。

真剣に授業をうける子どもたち=真間小

## 地域の先生方が みんなで子どもたちを育てる 幼稚園・小学校・中学校・養護学校の連携



## 専門の方に教えてもらう授業

～選択教科で学習支援クラブを活用～

中学校では、多くの講座(教科)を開設し、これを生徒が選択して学習する様々な「選択教科」を実施しています。東国分中学校(西博孝校長)では、学習支援クラブを利用し、選択教科「美術」に専門の方を講師として招き、パンフラワー作りを行っています。

1月28日は、2年生の授業で「サクラの額」づくりが行われて、花びらや枝などに細工を施し、中学生らしいすばらしい作品を作成していました。

講師の先生に作り方を聞きながら、「きれいにできただでしょ」「変な形になっちゃった」など、真剣に楽しそうに創作活動を行っている生徒たちの表情が印象に残りました。

このような活動は、生徒の興味を高めるだけではなく、貴重な体験となることでしょう。



## 地域の方々に感謝 塩浜小でもちつき体験

1月23日、塩浜小学校(菅澤龍之助校長)の「もちつき体験」です。地域にある3つの自治会の方々に指導してもらしながら、全員がもちつきを体験しました。

初めてもちつきを体験した子は、「上手にもちをつくことができてうれしかった」「杵が重くてむずかしかった」と話してくれました。もちつきを終えた子どもたちは、自分でついたもちをほおぱりながら、「つきたてのおもちは軟らかくておいしいね」「自分たちでついたらおいしくね」と、会話をはずんでいました。

3年生の「もちつき体験」が終わると、1・2年生の登場です。一人ずつ「もちつき体験」をした後、おみやげにおもちをもらってうれしそうでした。

地域の方々の協力で実現した「もちつき体験」でした。



1・2年生に手本を見せる3年生=塩浜小

## 知らないことたくさんわかったよ ありがとう西脇さん クジラ博士の出張授業 若宮小で

1月16日、若宮小学校(佐々木郁夫校長)では5・6年生の総合的な学習の時間で、(財)日本鯨類研究所調査部・西脇茂利部長を講師に「クジラについて学ぼう—クジラ博士の出張授業—」を行いました。

「みなさんと同じくらいの年頃の時、クジラを見たいなあ、と思っていました。今日はクジラについて研究してみましょう」と、西脇氏の話は始まりました。

「4㍍より小さいものはイルカと呼んでいます。イルカもクジラの仲間なのです。クジラの仲間はヒゲクジラ類とハクジラ類の2つに分けられます。さて、みなさんが持っているのはミンククジラのひげ板です」

「東京湾にもクジラはいます」

「うそー」「へえー」と子どもたち。

子どもたちは、「シロナガスクジラの生まれた時の体長は7㍍～7.9㍍です。お母さんは90㍑のミルクを赤ちゃんにあげます」などの話に、驚きの声をあげたり、目を丸くしたりして、熱心に聞き入っていました。また、休憩時間にはクジラの歯や耳骨などの標本置き場に集まり、興味深そうに標本を手に取ると、「これはクジラのどこの骨な

の?」と質問をしていました。

南極海でのクジラの調査に14回(そのうち7回は調査団長)も参加している西脇氏の貴重で興味深い話は、子どもたちの心に大きな感動を与えるました。

### 子どもたちの感想から

○マッコウクジラは3,000㍍も潜って深海にいる大きなイカを食べることを知り、とても驚きました。

○「なんで海の中には乳類がいるのだろう」と気になっていたけれど、話を聞いてよくわかりました。

○クジラの先生は20年もクジラの研究をしているなんてすごいと思いました。

○クジラは大きな体の中にたくさん仕組みがあってすごいなあと思いました。人間よりもすぐれているところがたくさんあることがわかりました。



## 授業の中でのインターネット活用をめざして

文部科学省 平成15年度教育情報共有化促進モデル事業

### 新しいことがわかつたよ

市川市郷土学習情報化促進研究員会議(市川市郷土学習研究員会議)では、郷土に関する学習指導のあり方を研究するとともに、小学校3・4年生が社会科の学習で活用する副読本「わたしたちの市川」・「社会科学習用白地図」やホームページを作成してきました。平成15年度は文部科学省より研究指定を受け、上記の研究に加え、インターネットのより効果的な活用についても研究を進めてきました。

副読本では掲載できる情報量は限られていますが、ホームページでは多くの情報を載せることができます。例えば、市川市各地の航空写真を見ることができます。例えば、梨作りの写真をクリックすると作業の様子がわかる写真や説明がたくさん出てきたりと、副読本の内容を発展的に扱えるような構成になっています。

ホームページを利用して、子どもたちが授業で興味・関心を持ったことについて新しい発見ができたり、問題が解決できたりします。このような学習活動は、子どもたちのさらなる意欲につながることでしょう。

詳細は、市川市教育センターのホームページ(社会科副読本用ホームページ『わたしたちの市川』)をご覧ください。

<http://www.ichikawa-center.ed.jp/fukudokuhon/web.htm>

(1) 学習ホームページと副読本、作業用白地図との効果的な学習活用の研究  
<< 電子媒体と紙媒体との効果的な補完・発展につながる活動を意識して >>

|                            |                    |
|----------------------------|--------------------|
| ホームページ(最初のページ)<br><<電子媒体>> | 副読本(表紙)<br><<紙媒体>> |
| ようこそ！学習ホームページ「わたしたちの市川へ！」  | わたしたちの市川           |
| 市川市郷土学習情報化促進研究員会議          | 市川市郷土学習情報化促進研究員会議  |
| 市川市郷土学習情報化促進研究員会議          | 市川市郷土学習情報化促進研究員会議  |
| 市川市郷土学習情報化促進研究員会議          | 市川市郷土学習情報化促進研究員会議  |

自分で調べることができるよ

**学力の向上**

指導課長 千葉県の学力テストの結果をもとに、市川市としての課題、今後の取り組みについて検討していきたい。また、生活力、人間力をつけていくためにどう取り組んでいけばよいのか、その実践をどのように学校に働きかけていけばいいのか、合わせて検討していきたい。

坪田 生活力や人間力というのはとてもよい考え方である。世界の中でも市川の位置は、という視点で取り組んでほしい。

木田 IEAで国際比較を行った。平均をとると日本が1位になるが、高得点を拾うと順位が下がる。

高階 度数分布で見ると団子状

態。これが日本の学力構造である。古賀 非識字者が少ない実態を考えると、日本の教育の成果である。学力というのはやはり基本である。第一の教育が家庭だとすれば第二の教育は学校。自分で学ぼうとする、第三の教育力をつけることが必要である。

木田 調査の数字を比較して簡単に結論を出すのではなく、その要素は何か、ということまで検討してほしい。

徳丸 スポーツの分野では小さいうちに有望な子を発掘して育てた方が伸びる。伸びる子はそういうシステムで伸ばせばよいのではないか。

大町 繰り返しやってもらえる授業はありがたいが、進んでいる子に対する対策もあるといい。

面に関心がいく。メリットをもっとアピールしていくかなければならない。

徳丸 役員は義務として当然やるべきである。

木田 家庭や会社外の活動として広めていくことは意義がある。教師がリーダーシップをとるのがよいのでは。地域のお年寄りなど、輪を広げてもいいのではないか。

大町 経験のある方にサポートしてもらえるとよい。

宇田川 いろいろな方が参加できる形がいい。地域にはいろいろなプロがいる。魅力あるPTAのモデルが出るとよい。

高階 地域の参画の仕方はいろいろある。新しい動きが模索されている。幅広く、新しい参加の仕方を考えていけば、今までのマンネリ化から脱却できるのではないか。

## PTA活動の充実

生涯学習振興課長 PTAは本来は保護者と教師の相互協力によって組織されたものである。今こそ、その必要性が求められている。

古賀 地域の方や保護者が一緒に活動することは非常に大事である。

高階 PTA活動のマンネリ化は前から言っている。どうやって立て直すかはこれから論議していかなければならぬ。

生涯学習振興課長 学校からの発信、学校からの熱情がPTAを動かすのではないか。

坪田 PTAも新しい風があるといい。ボランティア活動と定義し直すなど、新しい切り口が必要である。

大町 PTAに対するデメリットの

することを小・中学校の設置基準に明記した。

義務教育課長 保護者からの外部評価は多くの学校で整理をし、保護者に公開している。

古賀 今は評価の時代である。評価のない世界は進歩しない。

坪田 評価も目的は2つあると考える。自分たちで評価し改善点を見つけるための評価であり、外部からの評価である。

古賀 調査結果を見ると意識は低いと思う。評価慣れしていない。学校も保護者だけでなく、いろいろなところから評価されることが必要である。

宇田川 企業では個人がある目標を設定して、到達しているかどうか必ずチェックされる。評価制度は企業でも学校でも同じものが使えるのではないか。

徳丸 スポーツは目標が定まっている。目標もなくやっていくことは難しい。

大町 4月に目標を提示したら1年後にはどこまで達成したかを示してもらえたと保護者としてはありがたい。

## 縄文体験フェスティバル in 堀之内貝塚

3月28日(日) 10:00~15:00 堀之内貝塚公園・考古博物館・歴史博物館広場

国史跡の堀之内貝塚と考古・歴史博物館があるという地域的な特性を活かし、子どもから大人まですべての人々が気軽に参加して楽しめる、新しい地域まつりを開催します。

縄文人の生活を追体験できるコーナーやちょっと昔の遊び・フリーマーケット・模擬店など、楽しい企画が盛りだくさん用意されています。ぜひご参加ください!!

(申し込みや参加費は不要です。)

【問い合わせ】考古博物館 TEL 373-2202



前回の様子です

## 自然博物館情報

☆じっくり観察会 トンボの標本をじっくりと観察し、特徴などについて解説します。

○テーマ: トンボを標本で学ぶ  
日 時: 3月14日(日)午前  
場 所: 自然博物館(室内)  
対 象: 一般

申し込みは2月21日から往復はがきにより先着20名まで受付  
申し込み宛先 〒272-0801 市川市大町284 市立市川自然博物館

☆散策会 -市川市内の自然が豊かな場所を気軽に散策します。

○テーマ: 真間川散歩  
日 時: 3月21日(日)午前  
場 所: 真間川周辺  
集合場所: お問い合わせください。 TEL 339-0477  
※参加申し込みは不要です。また、雨や大風など天候不良の場合は中止です。  
TEL 339-0477

# 令和15年度 第4回 市川市教育改革懇話会

12月16日に行われた「市川市教育改革懇話会」では、教育委員会が実施したアンケート調査資料などをもとに『学力の向上』『学校評価』『PTA活動の充実』について活発な意見が交わされました。

## 学校評価

義務教育課長 学校評価は保護者や子どもたちとの信頼関係づくりの方法であるとともに、教職員の意識を変えるということが非常に大きな要素としてある。今後15年間は大量に教員を採用する時代である。学校評価は新しい風を教職員に吹き込んで、新しい感覚で教育に立ち向かってもらうためのものである。

事務局(企画調整課) アンケート結果を見ると、前年度からの変容を検証しているか、自校の教育活動の充実につながっているか、次年度の教育活動に生かしているか、という点が劣っている。学校も意識改革をしていかなければならぬ時代である。学校評価は開かれた学校づくり、保護者の満足度、マーケティング、教育施策の充実にもつながる。

木田 評価は誰が何をどう見るのかが明らかにならないといけない。評価の観点は、評価する人がつくるしかない。

高階 平成14年4月には文部科学省が、学校で自己点検・自己評価を

塩浜中プロックの「星を観る会」(塩浜小)には90名ほどの親子が参加しました(1/31)。高橋委員長から「今年は3年ぶりに観察ができるますね」と話がありました。この日は金星・火星・土星・月の観察です。

天体望遠鏡をのぞいた子どもたちは「わあ、すごい!こんなにはっきり見えるんだ」「図鑑と同じだ」と驚きと感動を表していました。一緒に参加した大人も「土星の輪がきれいですね」と子どもたちと同様に感激していました。

合間にボランティアの方々による手作りの豚汁をご馳走になりましたが、子どもたちも満足げでした。



塩浜中プロックの「星を観る会」(塩浜小)には90名ほどの親子が参加しました(1/31)。高橋委員長から「今年は3年ぶりに観察ができるますね」と話がありました。この日は金星・火星・土星・月の観察です。

天体望遠鏡をのぞいた子どもたちは「わあ、すごい!こんなにはっきり見えるんだ」「図鑑と同じだ」と驚きと感動を表していました。一緒に参加した大人も「土星の輪がきれいですね」と子どもたちと同様に感激していました。

合間にボランティアの方々による手作りの豚汁をご馳走になりましたが、子どもたちも満足げでした。

